

2007 年度 京大サロントーク

- 第 40 回 「最新の太陽像と宇宙天気予報」
- 第 39 回 「アフリカの環境変動とその自然」
- 第 38 回 「医療技術開発現場からみた多様性の意味」
- 第 37 回 「元素の同位体比からみた、生態系・物質循環・そして私たち自身」
- 第 36 回 「人間健康科学という医学・医療のルネサンス -リハビリテーションの「うひ山ぶみ」-
- 第 35 回 「ダ・ヴィンチの秘められた宇宙論 -それは天動説か、地動説か-
- 第 34 回 「低炭素社会を巡って」
- 第 33 回 「夢分析」
- 第 32 回 「解剖男、現る」
- 第 31 回 「超臨界流体の魅力～バイオ燃料への応用～」

※京大サロントークは、すべて以下の条件で開催しています

- ＜時間＞ 18 時 00 分から 19 時 30 分
- ＜会場＞ 百周年時計台記念館 1 階 京都大学サロン
- ＜対象＞ 本学の教職員および学生
- ＜定員＞ 45 名（先着順）（定員になり次第締め切ります。）
- ＜参加費＞ 飲みもの代として入場の際、500 円を頂きます。
- ＜申込＞ H P からの事前申し込み

第 40 回 京大サロントーク -平成 20 年 4 月 8 日（火曜日）開催



近年のスペース観測の発展によって太陽の驚くべき激しい活動性が明らかになってきた。そのような太陽の驚くべき正体について解説したのち、その地球への影響、予測（宇宙天気予報）の現状と将来について語る。

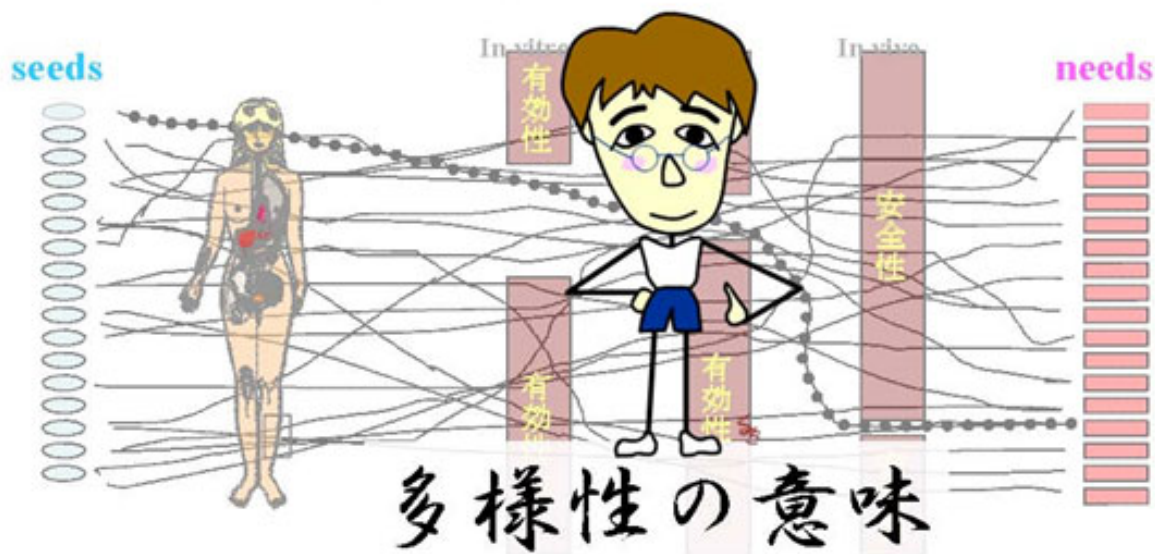
第 39 回 京大サロントーク -平成 20 年 2 月 12 日（火曜日）開催



アフリカのケニア山やキリマンジャロでは、近年、温暖化とともに急速に氷河が後退し、氷河直下に分布する植物の最前線の位置が上昇している。また、ナミブ砂漠では季節河川の洪水減少によって森林枯死などの影響が生じている。

第 38 回 京大サロントーク -平成 19 年 12 月 11 日（火曜日）開催

医療技術開発現場からみた



この男、医者をやめて医療技術の実用化研究をしてきました。まず、医療現場や研究現場での失敗や成功の裏話をいろいろとご紹介するそうです。医療技術はヒトの持つ相同な構造やしきみを利用して設計されますが、それだけではどうしても越えることのできない安全性の壁があります。医療のお話を種として、ヒト・生活レベルの多様性を考えてみよう、といった趣旨だそうです。医療ばかりではなく、地球・環境レベルや分子・量子レベルの多様性に関心のある方々のご来場もお待ちしております。

第 37 回 京大サロントーク -平成 19 年 11 月 13 日（火曜日）開催

元素の同位体比からみた、生態系・物質循環・そして私たち自身



Speaker 生態学研究センター
陀安一郎准教授

元素には、安定同位体や放射性同位体というものが存在します。生態学研究センターでは、各種同位体分析をツールとして、生物多様性に関する研究を行なっています。今回は、このツールで物質循環や生き物たちの暮らしについてどのようなことが分かるのかを紹介します。また、京大総合博物館の展示では、来館した方々の髪の毛を分析することによって「私たちの体の安定同位体比」も調べる企画をしています。日頃の食生活から、私たちが生態系のなかのどの位置にいるか考えることができます。では、あなたの安定同位体比は？

第 36 回 京大サロントーク -平成 19 年 10 月 9 日（火曜日）開催

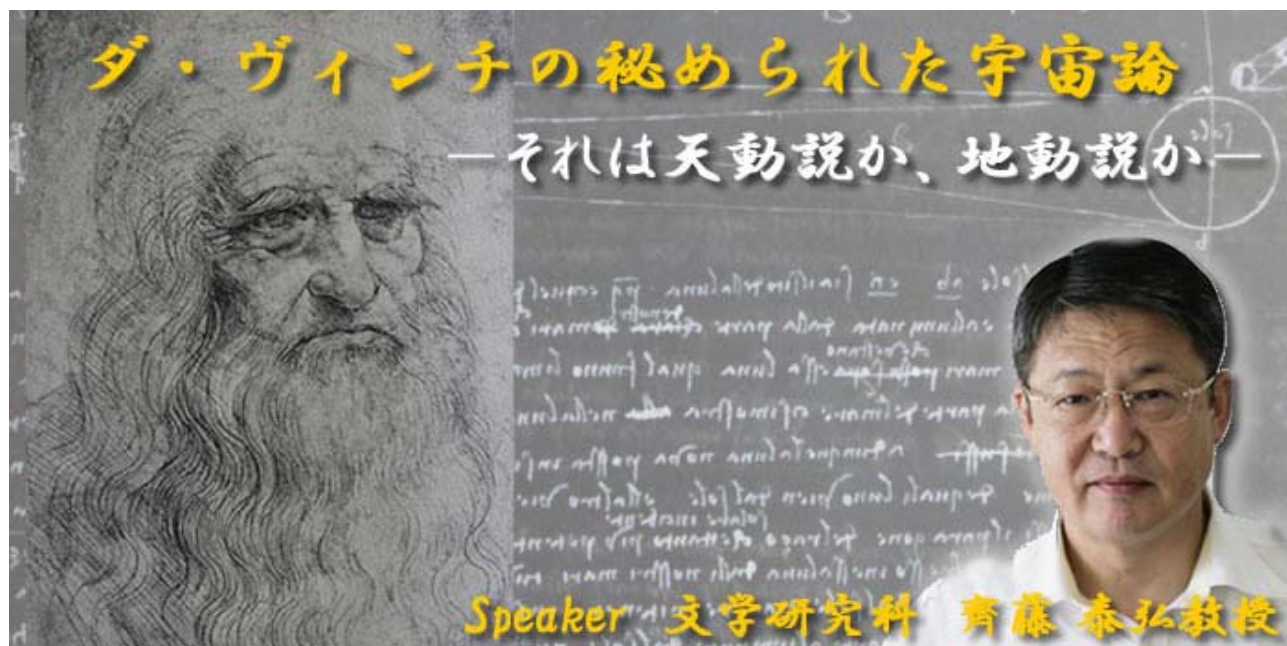


人間健康科学という 医学・医療のルネサンス ーリハビリテーションの「うひ山ぶみ」ー

Speaker
医学研究科人間健康科学系専攻 山根 寛 教授

華やかな近代医学・医療の進歩のあとに、「命の贈り物」というプレゼントとともに生活機能の障害を抱えて暮らすことを余儀なくされた人たちが山積している。贈られた命を生かすリハビリテーションが必要であるが、意外にその本質は知られていない。人間健康科学という医学・医療のルネサンスとして、リハビリテーションの「うひ山ぶみ」を話題提供する。

第 35 回 京大サロントーク -平成 19 年 9 月 11 日（火曜日）開催



レオナルド・ダ・ヴィンチ（1452-1519）は、この世の森羅万象に関心を抱き、それを芸術家の目で観察し、自然科学者の頭で考察し、普通の人には読めない鏡文字を用いて、膨大な手稿（絵入りのノートブック）を残した。一見すると、それは何の脈絡もない雑記帳だが、同じ執筆年代の図や記述を、ジグソーパズルのように組み合わせて、その時々彼の脳裏に浮かんでいた想念を再現してみると、彼はきわめて斬新で大胆な科学的仮説を育んでいたことが分かる。その一例が宇宙論である……。

第 34 回 京大サロントーク -平成 19 年 7 月 10 日（火曜日）開催



6 月ドイツのハイリゲンダムで行われた G8 で安倍首相は、世界の温室効果ガス排出量を 2050 年までに半減することを提案し、各国首脳はこの提案を真剣に検討することに約束した。地球温暖化の危機から脱するには、今世紀前半のうちに地球社会を低炭素社会に転換しなければならない。今回のサロントークでは、低炭素社会とはどのようなものか、それに向けて現在どのような検討がなされているか、について紹介する。

第 33 回 京大サロントーク -平成 19 年 6 月 12 日（火曜日）開催



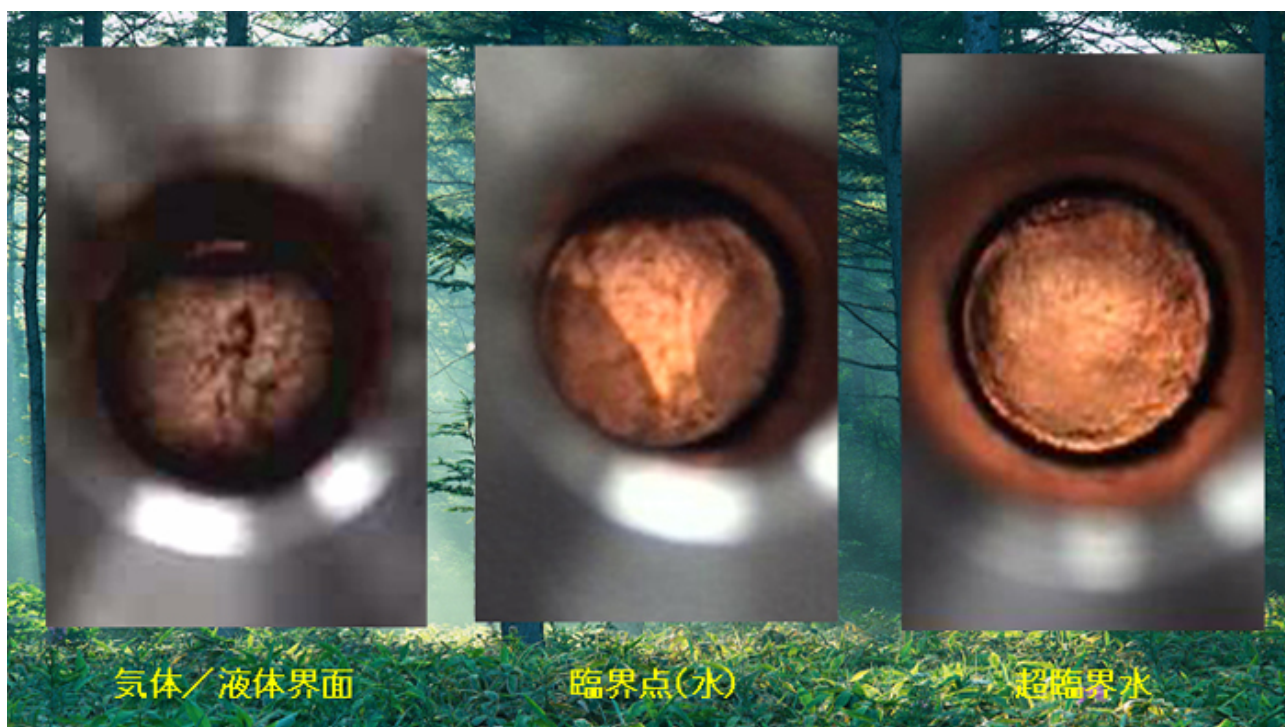
夢は自分から自分への手紙です。夢を読解することにより、自分が心の奥で考えていることが分かります。心の奥で考えていることには、時々否定したい内容を含んでいることがあります。そのような時には、夢は暗号文のように一読しただけではわからない形を取ります。今回は夢の不思議と魅力をお話します。

第 32 回 京大サロントーク -平成 19 年 5 月 8 日（火曜日）開催



「動物の死体は知の宝庫です。しかし、それが生ゴミとして捨てられているのも、現代社会の事実。解剖をこよなく愛する私が、死体集めと謎解きに熱狂する「遺体科学」の日々をご紹介します。」

第 31 回 京大サロントーク -平成 19 年 4 月 10 日（火曜日）開催



超臨界流体の魅力～バイオ燃料への応用～

speaker エネルギー科学研究科
坂 志朗 教授



超臨界水（右）では水の均一な流体状態が観察できる。次に、水の臨界点（374℃、22.01MPa）（中央）では超臨界状態からの相変化（両サイドからの陰の出現）が観察できる。さらに、液体［水］と気体［水蒸気］が共存する界面（左）では中央に黒色の気体相が液相中に存在している様子が観察できる。「温暖化による地球の危機を乗り越え、子孫に住みよい環境を引き継ぐための、環境にやさしい技術として“超臨界流体”を取り上げ、その魅力に迫る。その一例として、バイオマス資源の低環境負荷バイオ燃料への転換について解説する。」